

二〇二四年二月二三日

折雛は子らの手作り保育園
漆喰の蔵壁に鋭く梅の影
園児らのはしゃぐ手のひら牡丹雪
春寒し抹消増ゆる名簿かな
柔らかき稜線描く木の芽山

二〇二四年二月二二日

麗かやよちよちの子に手を引かれ
小流れに遊びては翔つ雀の子
さんざめく梅林天守より俯瞰
春雨に烟る森抜け美術館
春風の四方より通ふ石舞台
春禽の礫を放つ御神木
逍遙の鼻蠹かし春山路

二〇二四年二月二二日

引退の盲導犬に草萌ゆる
皿洗ひ夫にまかせて春炬燵
放牧の牛の機嫌や下萌ゆる
三桮の花の絹毛に雨の珠
雨宿りする四阿に芽木匂ふ
春霖に瀬戸の島山模糊として
風に鳴る祈願の絵馬に梅香る

康子

かえる

みきお

はく子

素秀

みきお

康子

せいじ

むべ

明日香

澄子

かえる

千鶴

千鶴

あひる

千鶴

むべ

康子

わかば

智恵子

二〇二四年二月二〇日

母とホ句見せ合ふ梅のベンチかな
な踏みそ汝が佇つところいぬふぐり
はんなりと霞棚引く神の山
雨あとの庭明るうす落椿
強東風や巖に砕ける波頭

二〇二四年二月一九日

うららかや園に散らばる豆画伯
笑顔なる七福神に梅匂ふ
白き馬柵つづる菜の花明かりかな
一水の楽に沿ひつつ青き踏む

二〇二四年二月一八日

一本の土筆を夫の家苞に
団欒のごと寄り咲きし福寿草
菜の花に埋もれ一服老農夫

二〇二四年二月一七日

強東風の天空に舞ふポリ袋
夕闇に浮かびし白や臥龍梅

康子

かえる

明日香

満天

みきお

智恵子

康子

わかば

康子

わかば

むべ

むべ

康子

康子

かえる

むべ

むべ

毎日句会みのある選・二〇二四年二月二五日